

### 15. 黒田英美

くらだ・ひでみ | 武蔵野美術短期大学油絵科、桑沢デザイン専門学校卒業。ベースデザイン科卒業。オブジェ東京展佳作。1991年 HOUSE K3 project インスタレーション展、2019年よりBankART AIRに2回参加。

新作の制作を行う。アルミ複合板に直接絵具で描く。何かのようで何物でもないものを作りたい。私の仕事は、何かのようで何物でもない色の断片の集積である。今回は今まで制作したものを引用し、より透明感を出し雲のような色の塊が浮かぶものとした。



### 19. 平田守

ひらた・まもる | 1989年埼玉県生まれ。2018年多摩美術大学大学院修了。相模原市の共同スタジオ「Penguin's House Green」で制作をしている。近年の展覧会として「ときめき絵画道」HB.Nezu (東京、2022)、「素敵な力のかり方」The 5th Floor (東京、2023、うららか絵画祭にて開催)。

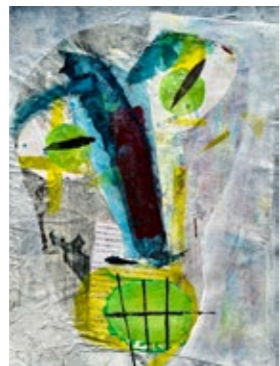
絵画とテーブルが融合した作品を制作する。最近「生活空間と絵画がハイブリッドした作品」を制作している。その延長線上にある作品の可能性を多角的に模索し展開する。また、制作した作品はオープンスタジオの際には、実際にテーブルとして使用して飲食を行う予定。



### 16. Fred Vee

フレッド・ヴィー | 私のアートに対するアプローチは、とても有機的で直感的なものです。創作の過程では、あまり細かいことは考えず、その時の気分や感情を大切にしています。その結果、抽象的な作品になることが多いのですが、私が伝えようとしていることには、社会的なコメントが含まれています。

私のプロジェクトは、COVID 19のパンデミックと、それに影響された私たちの気持ちを表現しようと考えています。もう元には戻れないという考え、無視され続けている社会の脆弱性がパンデミックによって露呈しているという現実、互いに助け合う準備がまだできていない様子など。



### 20. 松本恭吾

まつもと・きょうご | 倉敷芸術科学大学大学院修了。日本、ドイツ、アメリカ、オランダ、チェコ、フィンランド、セルビアのアーティストインレジデンスで制作を行い、作品を発表している。倉敷芸術科学大学、岡山理科大学非常勤講師。

美術作家として都市に対するリサーチをベースにイタズラを都市空間に仕掛け、場の持つ普段見えない側面を浮かび上がらせてきた。今回のレジデンスでは街をテーマにしながらも、絵本という形式を使い制作する。横浜の郊外の風景を使った3冊目の絵本を制作する。街の風景、現代という時代とじっくり向き合いながら制作していく。



### 17. 中村厚子+ 升本尚希

なかむら・あつこ | インスタレーション、立体、舞踏を制作。生命やエネルギーに着目し、自然素材や現象との協働制作を通して、人と自然の関係に迫る。近年は「身体ドローイング」を生み出し、身体表現から空間へと発展させる方法を模索している。

一昨年より湘南工科大学総合デザイン学科中尾ゼミと共に「中村厚子とアイウエオ歌劇団」を立ち上げ、舞踏、空間、サウンドを総合的に発展させながら江ノ島を舞台にしたオペラの共同制作を機に、今回のユニット制作に至る。

新高島駅という場にインスピレーションを得ながら、「空間」「身体」「自然(環境)」をキーワードに思いついたアイデアを、身近な素材と方法で実験的にアウトプットしていきます。



### 18. 凡人 (光岡幸一・根本祐杜・平山匠)

みつおか・こういち | 宇多田ヒカルに会う為に美大に入学。'19年東京にTAMA ART CENTERを創設。運営、企画、維持管理を行う。ねもと・ゆうと | 粘土を使って人や壺などを制作。東京、三ノ輪にある自宅「ソフトハウス」をアーティストスペースとしても展開中。

ひらやま・たくみ | 自分と他人の違いをテーマに、空想の物語をつくり、主に陶・彫刻・テキスト・音声などで作品を制作。品川区で「コウシンキョク」というアトリ工業、公民館的スペースを運営している。

独立した表現を模索してきた3人によるグループ「凡人(ボンドマン)」が今夏始動する。ボンドマンはBankART U35の募集要項を平山が勘違いし、メンバーが集まった。3人は潜水艦をつくることにした。ボンドには繋げる、固まる、直すなどの意味がある。潜水艦が繋げるのはボンドマンメンバーだけでなく、潜水艦を目撃する他者にも作用する。それはまだ見ぬボンドマンだ。



### アーティストトーク

毎回土曜 18:00~19:30、全5回開催

BankART Pubでワンドリンクオーダーをお願いいたします。

- ①4/22 カブ/三枝聡/平田守/関和明
- ②5/13 田内万里夫/凡人/Fred Vee/安河内彩香
- ③5/20 栗原亜也子/綾門優季/黒田英美/松本恭吾
- ④5/27 中村厚子+升本尚希/COM\_COURSE/山岡瑞子/嶋崎美音
- ⑤6/3 寒川明香/宇田見飛天/片岡純也+岩竹理恵/TQ

[アクセス] BankART Station

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい5-1

みなとみらい線「新高島駅」改札上 地下1F

[お問合せ] BankART1929

info@bankart1929.com TEL 045-663-2812



# BankART AIR 2023 SPRING OPEN STUDIO

2023.6.9fri - 11sun + 6.16fri - 18sun

BankART Station 横浜市西区みなとみらい5-1新高島駅B1F

綾門優季、宇田見飛天、安河内彩香、栗原亜也子、片岡純也+岩竹理恵、関和明、COM\_COURSE (久保田智広+吉村真)、寒川明香、田内万里夫、深沢アート研究所 緑化研究室 カブ、山岡瑞子、嶋崎美音、TQ、三枝聡、黒田英美、Fred Vee、中村厚子 + 升本尚希、平田守、松本恭吾、凡人 (光岡幸一・根本祐杜・平山匠)

# BankART AIR 2023 SPRING OPEN STUDIO

BankART Station にて、20組のアーティスト達が、4月3日から約2ヶ月半の間、制作活動を行います。下記の日程で、成果物の発表の場としてオープンスタジオを開催します。

会期 | 6月9日 [金] ~ 11日 [日] + 6月16日 [金] ~ 18日 [日]

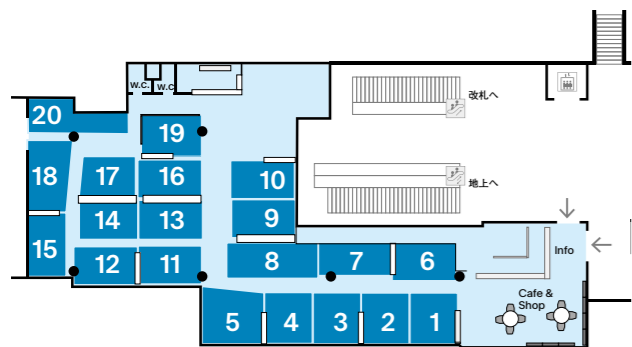
時間 | 11:00 ~ 19:00

会場 | BankART Station

料金 | 無料

オープニングパーティー: 6/9 [金] 19:00 ~ 20:30 (一般参加費500円)

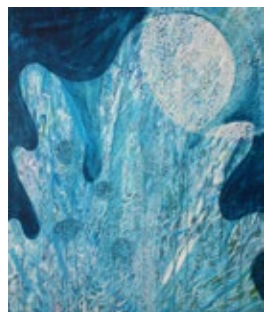
\* スタジオ活動期間: 4/3 [月] ~ 6/20 [火]



## 3. 安河内彩香

やすこうち・あやか | 1990年福岡生まれ。福岡教育大学教育心理学選修卒業後、海外生活を経て絵画制作を開始する。2018-2021年別府市の居住制作スペース「清島アパート」に滞在。心理学や精神世界、身体哲学の思想をベースに、意識と無意識の狭間で表出する色や形象と呼応しながら絵画制作を行う。

様々な作家と作る空間を共有するAIRの場において、自らが刺激され、影響されながら表出する色や線を重ね、そこで生じる心身の動きやその構造を描き出します。どのように、どんな絵を描くのかという問いを問いながら、表現方法を再開拓していきます。



## 4. 栗原亜也子

くりはら・あやこ | 横浜市生まれ。1999年愛知県立芸術大学美術学部油画科卒業。オセロ・ゲームのルールを用いて制作する「オセロペインティング」をベースに、絵画や写真、インスタレーションなどジャンルにとらわれない幅広い発表を続けており、韓国DMZエリアや奈良県明日香村の遺跡、静岡県大井川の河川敷などでの屋外インスタレーションにも取り組んでいる。

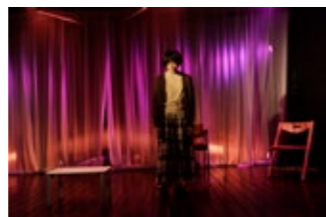
近年取り組んでいる「グリッドの中の風景」という写真とオセロ・ペインティングを組み合わせた作品シリーズをインスタレーション展開し、日々変化をとめない発展を遂げる(あるいは置き去りにされる)ヨコハマの都市風景の記録としての写真と、ゲームの痕跡としての絵画(リザルト・ペインティング)をクロスさせる試みを行います。



## 1. 綾門優季

あやと・ゆうき | 1991年生まれ、富山県出身。劇作家。キュイ主宰。2011年、キュイを旗揚げ。戯曲は「攻撃的で文語的なセリフ回し」「震災、テロ、無差別殺人など、突発的な天災・人災に翻弄される人々の様子を主なモチーフとする」を特徴とする。2015年、『不眠普及』で第3回せんだい短編戯曲賞大賞を受賞。日本大学芸術学部、尚美学園大学芸術情報学部非常勤講師。

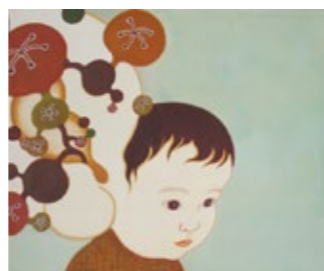
今年度は短編戯曲4作品の上演を控えています。「蹂躪を蹂躪」「非常に様々な健康の事情」(演出・綾門優季)、「永久に記憶する煙」(演出・児玉健吾)、「不眠普及」(演出・三浦雨林)。共通しているのは「孤独が個人の精神をどのように蝕んでいくのか」という要素です。スタジオ期間中は、4作品の稽古を、同時進行で動かしていきます。



## 2. 宇田見飛天

うたみ・ひてん | 九州産業大学芸術研究科修了後Bゼミスクールで新しい美術に出会う。東京、神奈川、高知で個展やグループ展を開く。美術館やギャラリーの発表に疑問を持ち、オーストラリア、スペイン、ロシア、ポルトガル、マレーシア、ブルガリア、トルコなどに滞在し子供の顔の壁画制作とワークショップを行う。

人との関係において、人が時折見せる表情にはその人の本質的な内面(本人も気付いていない)を垣間見る感覚があります。そんな表情を切り取って表現できればと思っています。具体的には人物画を描き、オープンスタジオではワークショップを行いたいと思います。



## 7.COM COURSE (久保田智広+吉村真)

コンコース | COM\_COURSEは美術家の久保田智広と美術史家の吉村真が2020年に結成したユニット。隠伏している歴史を起点に展示企画と作品制作を行う。

くぼた・ともひろ | 1992年東京都生まれ。2020年東京藝術大学大学院美術研究科版画専攻を修了。

よしむら・まこと | 1989年京都府生まれ。2016年早稲田大学大学院文学研究科美術史学コースを修了。

現在COM\_COURSEとしてアーティストの久保田智広と美術史家の吉村真は大正、昭和期に活躍していたある画家のリサーチを行っている。今回の機会を用いて、今まで行ってきたリサーチを元に具体的なアウトプットを検討していきたい。



## 8. 寒川明香

そうがわ・さやか | ミュージカルやオペラなど舞台作品へ出演、また即興セッションを含む「ジャズ音楽で踊る」活動を行う。現在はダンス経験や障害等の有無に関係なく誰もが踊ることを楽しむ「コミュニティダンス」のナビゲーションを中心に活動。様々な「あなた」と出会い踊るための場「60分のダンスカンパニー」主宰。

生きていることはダンスなんだと感じた瞬間、「あなたのダンスを教えて」「私はあなたと踊りたい」という衝動が起きました。踊りの場ではなく日常の光景から沸いたこの感覚を表現すること「無形物を記録する」ということに取り組みます。外にいますので気軽に声をかけてください。たくさんの「あなた」をお待ちしています。



## 9. 田内万里夫

たうち・まりお | 1973年生。テンプル大学教養学部英文学卒業。ストリートアート、トライバルアート、宗教芸術などに影響を受け、独学で絵を描くようになる。直近の個展「MARIO」(CADAN有楽町c/o Gallery Yamaki Fine Art/2022)——ほか『LOVE POP! キース・ヘリング展 アートはみんなのもの』壁画プロジェクト担当(伊丹市立美術館/2012)、映画『NEVER MIND DA 渋谷知らず 番外地篇』衣装協力(2023)、「タイ東北モラム酒店」壁画(渋谷区/神泉駅前)など。HACO NYC船員。

自由とはなにか/制約とはなにか、ということについて改めて考える時間にしたいたいと思っています。他者とのエンカウンターには常に興味があります。しばらくの横浜通いとなるので、移動の時間はできるだけ読書に充てたいと考えています。そのようなあれこれが何をもたらすのかが楽しみで、応募しました。



## 10. 深沢アート研究所 緑化研究室 カブ

かぶ | 深沢アート研究所を美術家山添 Joseph 勇と設立。さまざまな国・地域・団体と関わりアートを基軸として緑化活動や作品展示活動をする。2018年よりジャマイカ派遣(UICA)にて NGO JAID、Edna Manley college of art, Institute of Jamaica で活動。ジャマイカとのフェアトレードプロジェクト MOUNTAIN TOP HERBS 主宰。

日々の自然物(植物や土や鉱物など)とのコミュニケート。植物、生きものの存在の痕跡、みたくないもの、見えないけどあるもの、エネルギーを感じるもののつながりをビジュアル化したい。ワークショップとしてシェアする。ジャマイカのハーブプロジェクト MOUNTAIN TOP HERBS の Fair Wild 活動も進めます。

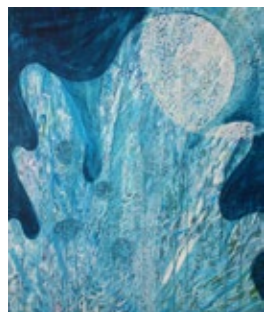
※フェアワイルドは、私たちが野生の植物を持続可能な形で利用するための仕組みです。



## 3. 安河内彩香

やすこうち・あやか | 1990年福岡生まれ。福岡教育大学教育心理学選修卒業後、海外生活を経て絵画制作を開始する。2018-2021年別府市の居住制作スペース「清島アパート」に滞在。心理学や精神世界、身体哲学の思想をベースに、意識と無意識の狭間で表出する色や形象と呼応しながら絵画制作を行う。

様々な作家と作る空間を共有するAIRの場において、自らが刺激され、影響されながら表出する色や線を重ね、そこで生じる心身の動きやその構造を描き出します。どのように、どんな絵を描くのかという問いを問いながら、表現方法を再開拓していきます。



## 4. 栗原亜也子

くりはら・あやこ | 横浜市生まれ。1999年愛知県立芸術大学美術学部油画科卒業。オセロ・ゲームのルールを用いて制作する「オセロペインティング」をベースに、絵画や写真、インスタレーションなどジャンルにとらわれない幅広い発表を続けており、韓国DMZエリアや奈良県明日香村の遺跡、静岡県大井川の河川敷などでの屋外インスタレーションにも取り組んでいる。

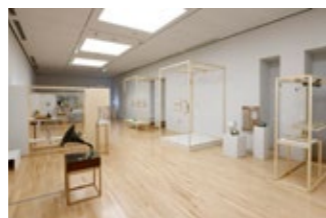
近年取り組んでいる「グリッドの中の風景」という写真とオセロ・ペインティングを組み合わせた作品シリーズをインスタレーション展開し、日々変化をとめない発展を遂げる(あるいは置き去りにされる)ヨコハマの都市風景の記録としての写真と、ゲームの痕跡としての絵画(リザルト・ペインティング)をクロスさせる試みを行います。



## 5. 片岡純也+岩竹理恵

かたおか・じゅんや+いわたけ・りえ | 筑波大学大学院修了後転々と移動しながら制作してきた。キネティック作品と平面作品を組み合わせた空間構成が特徴的で、素材や図案の出会いに物語を生み個々の作品の題材がゆるやかに響きあう手法を使う。近年は「瀬戸内国際芸術祭2022」、「MOT アニュアル2020 透明な力たち」(東京都現代美術館)に参加。

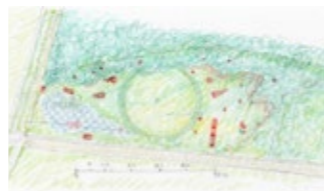
4月29日から5月14日まで神保町にある Bohemian's Guild CAGE にて夏目書房コレクションとあわせてグループ展「FLOW」に参加します。日常のささやかな出来事をシンプルな現象で再現する作品と、事典の挿絵に潜む物語を妄想する作品を発表します。その準備と新作をつくります。



## 6. 関和明

せき・かずあき | 1948年京都市生まれ。建築史家/建築家、関東学院大学名誉教授。1976年~2019年、大学教員として建築史と建築設計の研究・教育を担当した。また、横浜市の歴史的建造物保存活用事業に協力している。2018年より、北海道東川町にて「きたのりのまなびや」プロジェクトを仲間たちと進めている。

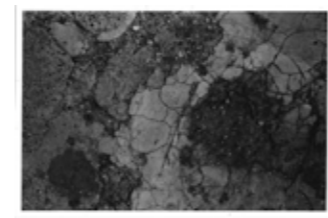
2023年夏に開催予定の「きたのりのまなびや@北海道東川町2023」の準備作業を行う。森に囲まれた約1000坪の空き地を、まなびやの「庭=キャンパス」として整え、そこに草花を植えたり、耕したり、「小屋:Hut」を建てたり、キャンプをしたり……。それとは別に、BankART school 「104年目のパウハウス」(4/18~6/13)に関連する資料を集めた小さなライブラリーを開設する。



## 11. 山岡瑞子

やまおか・みずこ | 東京生まれ。98年渡米。02年 Pratt Institute (NY) 卒業。卒業後、事故に遭い帰国。16年バルセロナで初短編ドキュメンタリー制作。同年、初長編ドキュメンタリー制作開始。BankART AIR 2021の参加を経て、初長編ドキュメンタリー映画『Maelstrom』が22年に完成。本作はピッツバーグ大学日本ドキュメンタリー映画賞2022グランプリ受賞ほか国内外での映画祭で上映されている。

BankART AIR2021に参加したことで完成出来たドキュメンタリー映画が、複数の映画祭での上映を果たした。本年夏、横浜シネマリンでの公開が決まり、今年度中に展示スペースで、映画に登場する私の作品を展示する可能性が浮上してきたため、今回のAIRでは、それらの作品を完成したと思えるまで作業したいと思う。



## 12. 嶋崎美音

しまざき・みお | 1993年横浜市生まれ。2014年にカリフォルニア州立大学サンマテオ校ビジュアルアンドパフォーマンスアート専攻修了。2015年よりニューヨークに拠点を移し、フランス人写真/映像作家のアシスタントを経て現在写真家として活動。2022年にドイツ・ベルリンの New School of Photography Berlin を卒業。ありふれた景色やその静寂の中に佇む残音や目には見えないものや言葉に寄り添うことで、写真における「音」表現の可能性を追求した作品を制作。

私の人生に寄り添うように歴史を重ねてきた風景、またそこで生活する人々の温もりと改めて向き合い、自身の原点である「横浜」での表現に立ち返ることは一つの転換点となるように感じています。時間と共に歩み変わりゆく景色や人々の「声」を写真として記録し、記憶に残る作品として未来に紡いでいけたらと思っています。



## 13.TQ

タクサワヒサミ | 横浜市在住。Bゼミスクールサマーセッション修了。イメージフォーラム付属映像研究所アニメーションクラス修了。プロダクト開発や情報デザインに関わりつつ、個人の表現活動としてAIR2021に初参加。普遍的なモノや現象の中から「残像のようなもの」を拾ってTQ(ちきゅう)で愚直に考える人。

今回は、チープな球体素材の透明さを活かして「まなざし」を捉え、そこから時間や空間や感情をそうぞうするような写真・映像表現に落とし込むトライをしました。低級(TQ)なヴィジョンを延長させるような装置あるいはペインティング、コラージュ等の手段にもトライしたいと考えています。



## 14. 三枝 聡

さえぐさ・さとし | 東京造形大卒(成田克彦、稲葉治夫、中村宏に学ぶ) ギャラリーバリ、ギャラリーQ、ギャラリーLARA、ランチパットギャラリーにて個展。LAのレイドプロジェクト、マークモアギャラリー、トランス美術館、JAUSギャラリーで、グループ展・2人展。今秋、神楽坂eitoeikoの企画展「デストロイ・オール・モンスターズII」に展示の予定。

“MATERIAL LOVE” 私の作品の素材として使うPVC(塩化ビニル)は、1931年にドイツで開発され、工業化が進むにつれ様々なモノに生産された。まさに物質文明を象徴する素材である。私は素材のモノとしての独自性をリスペクトし、絵画として作品化していく、実験的な作品を手掛けている。その流れの中で今回は特に「色彩」の問題を、再構築しているように計画している。

